

医師と行う ACP について

よこやま泌尿器在宅クリニック 横山 仁 院長

にお話を伺いました。



Q1: 医師として ACP をどのように捉えていますか？

A1: その人らしい生き方と最期の迎え方を支えるための、継続的な対話と考えています。忙しい日常の診療において、常に答えが出るまで毎回時間を割くことは難しいです。そのため少しずつでも対話を続けていくことを心掛けています。



Q2: 日ごろ ACP をどのように進めていますか？

A2: 患者さんの希望を聞くことから始めるのはもちろんですが、医学的な立場からある程度の妥当性を確保することも医師の役割だと思います。疾患の治療方法から終末期の過ごし方に至るまで、選択肢は時代とともに増えています。単なる選択肢の提示で終わらないように進めていくことを大切にしています。



Q3: わたしの想いノートについてはいかがですか？

A3: 「もしも」の時の意思について、その時のことを考える良いきっかけになると思います。ただ、健康な時に書いたものと有事の時に思うことは異なって当然です。一度書いてもそれが最終的な答えとも限らないので適宜見直すことが大切だと思います。

一方で“「もしも」の時のことを考えたくない”という方もいるかもしれません。それはある意味、その方の立派な意思なので、尊重することも大切だと思います。



Q4: 広報の特集を見て、ACP を知った方には何から始め欲しいですか？

A4: ACP は特別なことではなく、「自分らしく生きるための準備」です。「もしも」の時とは病気に限らず、事故や災害でも当てはまります。つまり誰にでも起こりうることです。まずは「もしもの時、自分はどのように過ごしたいか」などを家族や身近な方と話してみることから始めていただければと思います。

